

平成30年 宮城県ケアマネジャー協会  
ケアマネジメントセミナー

「当事者主体の自立支援」

職種	ケアマネジャー	介護職員	看護師	行政	その他
人数	158名	7名	4名	0	4名

173/225

//// 振り返り ////

1 当事者主体の自立支援についてどのように感じましたか？

- 当事者の自立支援が当たり前と言いつつ、どんな支援等が必要なのか情報を多く持ちできるだけより良い支援がしたいと思いました。
- 介護度が高いほどご本人の要望を吸い上げる事は困難になります。担当者会議でもご本人が参加しても理解は難しいケースも多いですが、改めてご自身が自分の事を大事にしていると、感じただけだけでも大きな意味があると思いました。
- 普段アセスメントやケアプラン作成時に、コミュニケーションが図れない方について、本人ではなく家族主体になっている事が多いと思う。相手が理解できるように説明や提案をいつの間にかしなくなっていた事に気づいた。当事者が誰なのか、どのように関わるとよいのか考え直す機会にしたい。
- 自分で理解したり、判断がまともにできるうちは自分の事なので、自分で決めて行きたいと思います。認知能力、考える能力が低下したら誰かに生活の事を決めてもらわなくてはなりません、その時は自分にとって、居心地よく生活できる場所や助けが受けられれば、自立支援になるのかとも考えます。
- 自分の決定は自分で行う。利用者さんも同じ。このことをいつも頭において対応して行かねばないと痛感しました。自分の意見を言いやすいような関係を、人として時間をかけて行って行くことが大切だと思った。
- 自己決定、自立支援と学んできたが、施設の中では職員主体で行っている事が多いと感じた。利用者のニーズに対して危険だからという理由で利用者の思いよりも安全を取っているケースが多いと感じた。どのような状態であっても、どこに住んでいても自分の事は自分で決めてもらえる、そんな仕事をしていきたい。(他1名)
- 私自身は地域包括支援センターのケアマネ(社会福祉士)なので、当事者主体、本人が参加した話し合いをできていると思っているのだけど、話し合いがしっかりできていたか、と反省するところもありました。合意や了解を待っていたと思ったただけだったらと、心配になります。
- 自分に置き換えると申し訳ない事をしていたなと感じました。ご本に確認してみると、スタッフ目線とは違う事を生活で望んでいたり、同じフロアの方でも生活優先度もお年寄り毎で違う事も最近感

じました。(例) スタッフはやはり、安心、安楽、場合によってはADLが下がる療養的ケアが多い。利用者Aさんはパットを濡らす事を気にしていたり、Bさんは身体の不具合、不自由な生活を気にしていた。意外とレクや楽しみは時々だから楽しい、参加したいのだとか。これからきちんとその方の望んだ生活を手助けしたい。(他1名)

- 施設ケアマネ、施設>当事者になっている事が多々あると改めて感じた。本人のいないところで、いろいろ決める場面が当たり前化している状況を変える努力を行う。当事者主体で行えるための話し合いに、当事者がいないいつの間にか決められているのに自立支援と思い込んでいたことに。

(他3名)

- いかに関自分が決定を本人にさせていなかったか。非常に反省しました。(他1名)
- 決める事は難しい。糖尿病等管理が要する病気がある中で当事者主体の難しさ。居宅だと管理しきれない。(特に独居) 医療側から制限を示されても無理(医者は守らせるといったりする、言うだけ) 個人的には好きにさせたいが、折り合いをつけるには医療関係者も交えて話し合いを重ねていくかないのかなと思った。(他4名)
- 居宅に戻り共有します。
- 人として当たり前の生活を支援する事は考える事はできても、家族を納得させる事の困難さを学ぶ事ができました。
- 当事者主体、当たり前の事であるがなかなかできていないのが現状であると思いました。
- 当事者をよく知る、よく話し合う事が必要。(他5名)
- 家族とのやり取りがメインになってしまうケースも少なくなかったので、今後気を付けて行こうと思いました。(他3名)
- 改めて意向、必要性を伺い、話し合いの合意の大切さ。私がいるべき、の大切さをかみしめました。
- 業務で悩む事が多い部分だと思うので考え方の幅が広がった。(他1名)
- 施設ケアマネです。現場で起きている本人、家族の問題をすべてというくらいケアマネにして欲しいとおろしてきます。現場で起きている事実はある程度本人、家族と話し合っていると難しいのが現状。話し合いがないから、問題が大きくなると本人主体はうちの施設では難しいのか。理想と現実を感じる。
- 利用者のケアプラン作成時、本人、家族に聞いていたが担当者会議で話し合いは形式的になっていた。
- 本人からお話してくださるような関係性が大事。
- アセスメントをきちんとし、必要なプランを見だし、本人の意向に沿いながら、関わりを持ち押し付けられない支援をして行きたい。
- 一方的に決めない。お互いが合意のもとに行われ、必ずそこには本人がいること。本人を見る、本人としっかり話をする(他3名)
- 改めて難しいと感じました。当事者主体だと家族がおいていかれたり、その分リスクもあるように思う。いつも当たり前でなく考え続ける事が大切だと思った。
- 高齢になり生活の中での支障が増えて行く中でも、自分の事は自分が決めるという当たり前の事がどの場面でも忘れないようにしたいと思った。
- 今まで本人の思いを十分に汲み取らないでプラン作成していた事を反省させられました。施設の中

で可能な事等、選択肢等を提示しながら当事者主体に少しでも近づけて行きたいと思いました。(他5名)

- 当事者主体とは決めるのは当事者だが、自分の事を自分で決めるための手助けをする事が必要であると認識しました。当事者を知る事、理解する事が関係性をよくすることだと思いました。
- 自立支援の為に考えて携わっているが、早く決めて、次の利用者さんのところに行くことを考えていたように感じました。
- これまでの振り返り、これからの指針として考える事ができました。(他4名)
- 普段、当事者主体と思っていても、実際は本人の意向が無視されてしまったり、必要性や安全、安心に重きを置いてしまって支援者いる事が多くあると感じた。その方の想いや、考え方は様々で支援者本位で進めてはいけないのだと改めて感じた。又、相手が期待する返答や態度で伝える事で話しやすい雰囲気ができたり、当事者主体の自立支援につながると感じた。
- 本人に説明を行い話し合いで合意をいただく事が大切だと再確認できました。認知症の方でも伝えて行きたいと思いました。(他5名)
- 当事者の為の支援である事は十分わかっているものの、生活に必要なものというプランが多くなっていますね。金太郎飴のようにならないよう気を付けます。
- 本人がしたい生活、本人がしたいサービスを受ける、当たり前の事と思いました。
- 安全、安心の名目で利用者、家族の意向を後回ししていた事があった。
- 当事者(利用者)の想いを尊重し関わっていく大切さを痛感しました。今までの支援や関わりの振り返りができ、貴重な機会となりました。(他8名)
- 当事者主体とはどういう事か考えた事があまりない。その中でも当事者主体、利用者本位とだしていた事自体、自分本位だったと感じました。今後は今日のセミナーの内容を意識して取り組みたいと思います。(他3名)
- 本人、家族とのコミュニケーションが特に重要であると再確認しました。
- ご本人抜きでサービス担当者会議をよく開催しています。今後は当事者主体で支援していきたいと感じました。
- 本人ありきの考え方がないと適正な方向へ進まないと思いました。現在のケアプランが本人の為になっているのか不安になりました。本人が望む生活は本人にしかわからない。今の楽しみ、家族が希望する生活。コミュニケーションは最重要。
- 本人の状況、ご家族の状況、思いとすりあわせていく事で、こちらの思う方向性とは違った決断をする事もあるが、方向性の行方をケアマネが提案していく事で考えられるのではないか？ケアマネの思いが答えとは限らず、本人や家族がどう考えて進んでいくのか状況に沿って行きたいと思います。(他1名)
- 普段の生活は普通に行っているが、要介護状況になったという事だけで、勝手に判断力は低いと考えてしまいがちだなと感じ、振り返りができた。
- 当事者とは誰なのか、改めて振り返りができた研修でした。相手の意向を聞く自分の心のゆとりの必要性を学びました。(他1名)
- 何を大事にしているのか、思いを感じました。
- 本人主体の支援を心がけていたが、本人のいない場所で家族と話し合ったり、決定したことがあつ

た。自分がその立場だったらと考えると、人に決められた生活を送る事の苦痛を感じると思った。ケアマネジャーとしてのとしての本人主体ということのを忘れずに支援にあたりたい。(他6名)

- リスクをわかって行う権利それを守る事について、共感できた。
- 自己決定をしてもらう、自分たちの考えを押し付けないという事を忘れてしまうことがあった。良かったと思って、という事があったと思った。(他4名)
- 当事者である本人が、どの位自分で決めて支援を受けられているか。今までは本人の話も聞きながら家族の意向も組み入れて支援内容を考えていたつもりです。施設入所だと九割近くは家族意向が多く、本人主体は少ないのが現状です。今後若年の方だったり、自己決定できる方も増えてくる可能性もあり、本人の意向に沿った支援ができるよう努めていきたい。(他6名)
- 本人の能力(理解力)を十分把握し、すべてを手伝うのではなく、本人が何をしたいか、何ができるかを評価し支援することの大切さを改めて感じた。
- 当事者主体を考えたときに、基本となる対人援助、関係性が土台になってくると振り返りができた。
- 基本的には自立支援という事が頭にあります。しかし、業務に入ってしまうと頭から抜けてしまっていると思います。改めて意識して仕事をしていきたいと思います。
- それぞれの場面で決める事、決め手もらう事は難しいと感じました。(他7名)
- 家族同居のケースは家族主体になりがちです。事例は身近なケースとして共有できました。
- 日頃の自分を振り返り自分の考え方があまりにも管理的だったのかと思いました。その人のためとって自己決定する機会を奪っていたのではないかと、リスクだからと言ってその人のやれる機会を奪っていないか、考えるようにしようと思いました。リスクや決まりだからという頭でばかりいたように思いました。(他9名)
- 世の中には本当にいろいろな人がいて、何が普通かがわからなくなる位です。実際に援助していく中で、どれだけ当事者主体にプランを立てられているかとても不安になります。でも知っている事と気にしていく事は大事だと思います。長くケアマネをしていながら恥ずかしく思いました。初心に戻り務めていきたいです。(他3名)
- バイスツテクの原則、これにすべてが集約されていると思う。(他4名)
- 自分の事は自分で考えて決めたいのに、どうして事業者として関わると上下関係のような立場となって自分の考え方を押し付けるようになってしまうのか。改めて普段の関りの時から意識してないと当事者主体にはならないと思いました。(他2名)
- 今後の自分を考えると・・・。大事にしていきます。
- 利用者主体を改めて見つめ直してみても、家族主体、サービス主体になってしまっている現状とのギャップを感じてしまいました。時々振り返って本当に当事者主体にアセスメントやケアプランを見つめ直す必要があると思いました。(他4名)
- 施設ケアマネをしており、今回の法改正に絡んで自立支援について改めて学びたいと思って参加しました。全ケアマネに伝えて振り返り、考えていこうと思いました。
- 各々の身体状況や生活環境、経済状況によって望める生活は違うと思うが、基本的な概念としてノーマライゼーションの考え方は大切だと思う。
- 当事者の事を考え過ぎて家族の考えが後回しになってしまった事があった。
- 関係構築が大事で、自分を相手に知ってもらわなければ、相手を知らなければ自立支援は成り立たな

いのではないかと思いました。(他9名)

- 新しい制度の改正を知ることができよかったです。当事者主体を当たり前のことと知っても実践することができないでいる、福祉関係の方々がおられ、困った事と思ひ時があります。
- ケアマネ自身が色々情報提供できるように知識が必要と思いました。また、わからなければその専門家に聞いてみる。選択しメリット、デメリットを示しそれで決めるのは本人でとりたいと思いました。経験値も必要と考えました。良好な関係上で自己決定しやすいように考えます。(他1名)
- 今まで心の中で引っかかっていたものが取れたような気がします。自分の個性が活かせる時代になればよいと思います。
- 居宅では利用者本人、家族を理解することがまず大切でお互いに話愛ができることで、信頼関係を作っていく。施設の中で利用者と十分な話し合いができていくか、これからしていくようにならないといけないと思います。
- 提案がうまく伝わらないことがありましたが、伝わらなくていいんだ、本人が決めたことならいいんだと思いました。
- 本日の研修に誰の意思で来たのかという問いに当然のことのように自分で決定し来たが、果たして自分の担当している利用者さんが全て自分で決定して頂いているのかと考えて時に全てではない事に気づきました。私なら死ぬまで自分で決定したいです。私貫には決めてほしくないです。この事を忘れずに支援していきたい。
- 自分がサービスを利用する立場になった時、何かを制限されたり、勝手に物事を進められたりして、今までの生活ができなくなると、自分が弱く能力にない人間になったように思ってしまう。そのような気持ちにさせる事が無いようその人の能力に合わせ決められる提案や説明をきちんとできるようになればいい。(他4名)
- よくわからなかった。
- 変わっていく事、必要。
- 自分で決められる人(リスクも含めて理解できる人)は自分で決めてもらう。自己決定できる能力がない人についてケアの方向性をどう決めていったらいいのかわからないと感じた。特に変わりに決定してくれる家族や後見人もいない人はどうしたらいいかいつも悩んでいる。
- 本人の認知状態により、介護者の話を聞くことが多くなっているように感じた。
- 本当に大切なことを改めて学ぶ事ができました。
- 認知症(軽度)の身元引受人なし、後見人を付ける事ができないケースの自立支援が目前の問題としてあります。本日の研修をよく振り返り考えたいと思います。
- 認知症対応のグループホームのケアマネです。正直言うとケアプランはスタッフで検討してケアマネが作成し、ご家族に説明し承認して頂いてきました。なかなか時間もなくてそれですませてきました。なんとなくどうかと思ひながらも続けてきました。

## 2 これからの要介護者支援にどのように活かしていこうと思われましたか？

- 本人の意見を伺いケアプランに盛り込むか考慮しながら進めていきたい。
- 相手との話し合い、信頼関係を活かしていこうと思った。(他2名)
- 本人を知ることを丁寧に行い、どんな考えを持った方でもその選択を大切にしたい。
- 本人も家族も一人ひとり違って考え方も違うので、その人が自分で決められるように提案していこうと思った。(他4名)
- 施設主体ではなく、本人主体に沿えるよう何が不足しているのかアセスメントし、施設でもできる事を具体的に検討していきたい。
- 利用者、家族との関係性がより良い関係性で支援できるように。
- 当事者主体、利用者主体の自立支援に資するケアプランを作成していけるように自己研鑽していきたい。(他2名)
- 自分で考え決めたことを誰か(上司、同僚)に話し、自分だけの判断にならないよう注意していきたいです。
- 一人ひとりの思いを受けとめられるようにして、納得してサービスを利用するなり、在宅生活がその人らしく続けられるように支援していきたい。(他2名)
- 基本に立ち返りもっと本人の気持ち、話しを受け止められるように心がけていきたいと思います。自分が利用者だったらと視点も必要かと感じました。(他1名)
- 本人の考え方に対してそれを実現する手助けをするよう努める。
- 支障があっても支援を受ける事で、地域で暮らすことが当たり前になれるよう本人、家族への支援と地域づくりが大変だと思います。(他10名)
- 当事者主体の支援となるよう、関係性を築き話し合いの場を重視していきたい。(他8名)
- 本人利用者、キーパーソン、理解度等確認して、程度に合わせて促していく。(他4名)
- 多職種や家族の力を有効に活用して支援していこうと思いました。
- 本人中心、当事者本位、対等な関係を大切にして支援していきたいと思いました。(他2名)
- 理解できないのではなく、説明の仕方に問題があるのかという気持ちを持てるようにしたい。こうあるべきという考えを改めていきたい。(他2名)
- アセスメントの段階で本人とキーパーソンの意向をくみ取るよう心掛けます。ありがとうございました。(他3名)
- 特養のケアマネです。入居者の話をするときには本人は入っていません。私が移動する前からそうでした。それを変えていく事からしていかなければと思った。
- 常にその方の権利や思いを大切にしながら、当事者主体の関りをおこなっていく。(他6名)
- 大変参考になりました。
- 当事者との話し合いの重要性。(他10名)
- 自分自身の話し方や、相手の状況に応じた説明や理解を得られるよう、主体が利用者であることを意識してケアマネジャーとして関わっていきたいと思う。(他5名)
- 決定権は利用者にある事を忘れてしまっている部分がありました。
- 業務の中に取り入れたいし、現場にも研修で伝えていきたい。(他2名)

- 今後もできるだけその人をそのまま理解、受け入れて、だれが一番困っているかを考えたい。家族だけではなく、その本人。(他1名)
- 自分の事を自分で決める手助けという事で、どれだけ決めた事を尊重しているか常に考え、利用者の思いを聴ききる事をしていきたいです。リスクを考え過ぎている為、リスクを伝えつつ選んでもらうという環境を作っていきたい。(他5名)
- 良かれと思って提案した事が逆に自立を阻害してしまうので、サービス利用を提案、実行するときには最小限にしていく事、インフォーマルサービスの活用も進めていこうと思いました。
- 困難ケースに当たったとしても、チームで支援し、問題の解決にあたりたいと思いました。
- リスクに対する方法のみに意識を傾けず、こういったリスクもあるけれどそうすることで自分らしさの生活につながることもある。ネガティブな情報でも伝える事も大切であると感じました。本人にイメージしてもらい選択してもらえるように。(他4名)
- 今日の研修で決める事について学んだ。理解、覚えているか、選んで、意思表示。その方に合わせた能力評価を時間かけて待ってあげる気持ちが必要だと思いました。今後の支援で活かしていこうと思います。(他2名)
- 利用者という目ではなく、一人の人生の先輩として接する事を心掛けたいです。
- 当事者主体でアセスメントしていき時に、家族のアセスメントも重要となるので、利用者本人のアセスメントと一緒にしていくようにします。安全性確保に向かいがちな自分の考え方にも気づく事ができ、ケアマネ自身の考え方の癖も見直していきたいと思います。
- 押し付けにならないよう当事者主体のマネジメントができるようにしていきたい。(他9名)
- 支障が生じた時だけでなく、日ごろからの関係性の大切さを改めて感じた。
- リスクを背負い、生活する権利を奪わないようにしたい。本人ができる事まで奪わないような支援をしていきたい。
- 能力を見たうえで、その人の持つ権利も考えてメリットやデメリットを選ぼうとしている事に対しての十分な情報提供をしたうえで、誘導するのではなく相手に決めやすい環境を提供できるようにしたい。(他6名)
- 今回の研修を通して、自分だったらどう考えるかという事を教えてもらった。業務に活かしたい。(他4名)
- 自分の事が自分で決められる支援になるよう、できるよう前進します。(他1名)
- 意向を口にできない人もいるが、コミュニケーションをなるべく図り、覚えてもらえるところから訪問していきたいと考えます。(他3名)
- 本人との関わり、無駄に思える話、どんな生活歴があるのか等、いろいろ話ししながら支援していたと思いました。本人のやりたい事、意向は生きる事なので大切にしていきたい。
- 本人より家族への対応で予測できる事を提案しても理解してもらえない事を多々ありますが、バイスツテクの原則も大切に関係性をもっていきたい。(他4名)
- 相談があった時に活かしたい。
- 今後、医療、介護の連携を密にして情報共有、確認していく。(他2名)
- 自分の感情をコントロールできるようにしていきたいです。
- 本人に同席していただきます。また、普段から意向を伺うよう努力します。(他5名)

- 自己決定、意思表示の支援をしていきたい。
- 最終的な自己決定は本人であり、それをきちんと受け止める事を意識していきたい。
- 権利について意識していきたい。本人が中心にいる事を意識したい。自分の将来に置き換えて、人と人の関りを大切にしていきたい。(他3名)
- 本日の事例のようなケースを抱えています。参考にして当事者に理解、信頼いただけるよう努力してみます。
- 話し合い、方向性を決めていく事の重要性を再確認した。
- 私の考える話し合う事は大事であり、間違っていなかったと再確認できました。施設全体で考えていく課題と痛感しました。
- よく話し合いができ、利用者が自分の意見を話していいと、反映してもらえるとと思ってもらえるようにしたい。
- 今まで関わってきた事例に対して、反省する点もたくさんありました。今後活かしていきたいと思っています。
- 要介護3以上の方が入居しているという事で正直、本人とのコミュニケーションを諦めていた部分がありました。本人の思いを知る、思いを素直に話せる環境、雰囲気作りをしていきたいと思います。
- きっと本人は決められないという思い込みはやめる。家族の津陽意向に押されないように、押されてしまっても本人の話聞く、話し合いをおこなう。
- 施設なのでやはり、リスクを冒さないような支援をしていたが、それはその方の生きる権利を奪っていたのかと考えさせられた。どんな状況でも当事者主体の考え方を忘れずにいきたい。
- ケアマネの思いが全てケアプラン(生活)に支配という事にならないようにケアプランは誰のものか考えていきたい。本人、家族の意見が合わないのはどの点で、課題、原因なのかと考えてみる。その方の思いや考え方を表出して具体的にどうしていきたいか、きちんと確認していく事が必要と改めて感じた。(他2名)
- リスクを背負って生きる権利を理解し、当事者主体の自立支援。
- 本人が今の生活は自分が決めたのだと納得、満足のいく生活サポートしたい。
- ケアマネの立ち位置、距離、向き合い方の必要性を再確認しました。



### 3 その他, 思ったこと感じたこと

- いろいろな内容の研修をお願いします。
- とてもよい振り返り。将来に向けての立場やあり方がそうなれるように努力します。
- 皆さん、悩みながらお仕事されていると安心しました。一人で抱え込まず悩んだら相談することも大事だと思いました。
- 一人で、または一人の事業書だけでなく、周りの事業所からケアマネと事例検討会をおこない、技術向上したいと思います。(他1名)
- とてもわかりやすく参考になりました。同じような思いに共感できた。(他2名)
- 事例検討はわかりやすいのでこれからも参加していきたいと思います。事例検討後の総評もわかりやすかった。
- とても勉強になりました。参加できてよかったです。ありがとうございました。(他1名)
- 老人世帯や、息子さんと母といった世帯が多くなっており、今後も増えていくだろうと感じます。自分の希望通りに生活していく事の困難なことを感じます。
- 6月の初めに更新研修を受ける。まだケアマネとして自信を得ていないが、頑張りたい。
- 当事者の話を聞き考え、スタッフや支援者、多職種と話をしながら本人の意向を考えていきたいと思いました。(他1名)
- 事例検討会を難しく考えていました。本日は大変参考になりました。
- 当事者主体と思いつつも、自己決定が当事者の利益につながらないケースもあり、その時伝わらなくてもコミュニケーションや関りを継続し時間をかけてよりよい支援につなげていけたらと思いました。
- 思いとリスクのバランスに対してどう接していくのが難しいと思いました。
- ケアプラン作成や担当者会議で当事者である本人の判断、理解が難しくご家族が主体となっている。本人の可能性も考慮しながら進められればと思う。
- 当事者の自立支援について、小湊さんの説明が参考になりました。頭に入れながら迷った時は見直ししながら、その人らしい自立支援をおこなっていきたいです。
- まだまだ努力をしていかねばと思った。学習していく事も大切だと思ったので研修の機会をこれからも企画していただきたい。(他3名)
- 当たり前の感覚を忘れないようにしたいと感じました。
- 今回学んだことを仕事に活かしていきたいと思いました。(他1名)
- 対人援助は難しい。
- 訪問する立場と、施設で受け入れする側の立場にはケアするものとしては同じはずなのに、施設側はどうしても管理的になってしまうことが悲しいと感じたので、サービス事業所側も勉強が必要の野ではないかと思った。
- セミナーに参加して事例を見せて頂いて苦勞をされているんだと思いました。これからも参加して参考にしてスキルアップにつなげるように頑張っていきたい。
- 人として生きる事の大切さ、その支援の在り方。(他3名)
- 話し合いは大切だと再確認しました。

- 草刈先生のお話しにあった医者が知りたい介護情報、介護が知りたい医療情報を今後どう情報提供していくのか？との内容は私も知りたい内容であり、今後の勉強会で取り上げていただきたい。(他2名)
- 日々悩む事が多く今回の居宅に事例は、ほぼ同じようなケースを担当しておりとても勉強になりました。ありがとうございました。(他4名)
- ケアマネとしての感性のコントロールは大変ですが意識して続けていきたいです。(他1名)
- 二つの事例を聞かせて頂きケアマネとしての葛藤がとても共感できた。今後も事例検討を通じて勉強していきたい。
- 本人、家族と話し合い合意で決められるように努力していきたい。意識を高めていきたい。
- 介護保険だけではなく、他の専門分野との連携がより必要と感じています。なかなか動いてくれない部署も多いですが、何回も相談し協力体制を行くよう努めていきたいと思います。
- 本人、家族、他、支援者トータルバランスを取りながらケアマネだけで抱え込まない。
- 一人で抱え込まないで皆で考えるという話しを聞き、なんだか今まで自分で何とかしようとしていたと思ひ反省した。
- 事例を発表してくださったお二人の自己決定力は素晴らしかったです。
- 相手に理解してもらえる説明は難しい。どうしても長々説明をしてしまう事になる。
- 日々の自立支援に活かしていきたい。(他2名)
- 施設事例について。自宅で過ごしたいという意向についての向き合い方をもっと深く考えていきたい。
- 生命にかかわらない事であれば、多少不便でも見守っていただけたいのかと思います。
- 平成30年4月法改正に伴いより本人、家族の主体性の大切さがより、医療、介護の連携につながる感じた。(他1名)
- これからの時代は自分の事は自分で決める。これを担保できるようにしていく事が私たちの役割だと思いました。
- 初めての参加で事業所の枠組みの全体を垣間見られた。
- グループホームのケアマネです。どうしても本人より介護職員の話しを聞いてしまう事が多くなっていましたが、本人の言葉、話している内容をよく聞いて、家族とのコミュニケーションも取りたいと思います。
- 事例検討ができてよかった。
- 気づきと振り返りになりました。ありがとうございました。(他2名)
- 自己決定、自立支援、当事者本位、お題としてわかっているけど日常の自分のスキルや支店の中に抜け落ち、業務中心型の仕事になってしまいがちなので、こうした研修は身の引き締まる思いです。
- 制限や食事の大切さについて改めて本人の気持ちも含めて考えていく必要があると感じた。
- 小湊さんのお話は毎回お聴きして時間が足りないと感じました。いつも楽しく、貴重なお話をありがとうございます。
- 家族支援は難しいです。
- 悩んだり、迷ったら学生の時にも学んだバイスツテクの原則だと改めて感じました。
- 当事者主体のケアマネジメントセミナーがあると知り、10人のケアマネを代表して参加しました。

本来は休みであるこの日に、たくさんのケアマネが集まった事に、より良いケアマネジメントを望んでいる同志がいる。とても嬉しいです。これからも何回でも開催してほしいです。ありがとうございました。

- 話し合い、互いの合意。その時に全て決めなくてもよいと思った。ある程度時間かけても、何が支援の本質なのか考えなおしたいと思いました。
- 忙しい毎日ですが研修、事例検討に参加することが大切と思いました。
- ケアマネを始めたばかりで毎日緊張しています。不安で手探りです。今日はいろいろ励まされました。
- 施設ケアマネです。会社でも法改正における勉強会はしないので、自らアンテナを張り情報収集しています。他施設では改正をどう解釈して、実際にどう取り組み始めたのか。こうした機会がないとわからないので、研修で知るきっかけになりありがたく思っています。井の中の蛙に施設ケアマネはありがちなので、また学ばせてください。そうした企画をお願いします。
- 自分の親に対しても自立阻害しているのではと日常的に。はっとしました。言葉のキャッチボールを大切にします。
- 話し合いの機会をもち、信頼関係を作る事が必要と思いました。
- 医療との連携について今後、色々研修を受けたいと感じました。
- 大変心が洗われました。その方の余命、人生についての生活を大切にしていきたいと思えます。
- 礼儀と尊重の態度を忘れないように接していきたいと思った。人相手の仕事なので否定的にならないで、支配してしようとならず、肯定的に関わって相手にそうかと思ってもらえる関係。是非実践したい。
- 事例検討の雰囲気がとてもよく、自分の地域で行う際に是非参考にさせていただきたいと思えます。「言い足りない事はないですか」「だってさあ というのはありませんか？」という事例提供者への声掛けがとても良いと思いました。事例を出してよかったと思える会でした。
- 久しぶりの事例検討会(?)で視点を広げる事ができました。支援は一つだけではない、たくさんある。
- 今日は、各居宅で共同の研修会を地域で実施するうえでの、事例検討の進め方を学びに来ました。改めて自己決定についての振り返りができました。また、改正についての情報も正しく理解できました。ありがとうございました。
- これまでケアマネからの意見、支配的な面談が多かったように振り返る事ができました。とても勉強になりました。
- 長く仕事していくうちに、ぶれていく部分がどうしても出てきてしまうので、このような研修に参加する事で修正できよいです。ありがとうございます。やっぱり事例を通しての勉強に勝るものはないと思えます。
- ケアマネになりたての頃同じように事例提出させられた事を思い出しましたが、時々振り返るには必要な研修だと思うので、又おこなってほしいです。